

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田晴久
新エネルギー委員長 中島 稔
両団体専務理事 清原 淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第298回)

日時 平成28年3月3日(木) 午後1時半～4時
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、太陽光エネルギーで世界最高率の水素製造技術

解説 東京大学大学院工学系研究科 杉山正和准教授

3、『新エネルギー関連ニュースNO.153』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る2月2日開催の第297回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島稔委員長より「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題してお話がありました。アメリカは石油の輸出を40年ぶりに解禁した。イランの経済制裁が解けて、イランも輸出を開始する。中国経済はスローダウンしている。ということで原油価格は30ドル/バレルを割り込んだままだ。これによりアメリカのシェブロンは6000～7000人のリストラ、BP(イギリス)も4000人カットするなど対応におわれている。石油の需給バランスが戻るまでには10年かかるだろう、と知っている人もいる。

次に、工営エナジー(株)専務取締役の福田真三様より、「らせん水車の開発と適用および小水力発電の取り組み」と題して解説がありました。日本工営(工営エナジーの親会社)は、水力発電事業者として、国内に5つの事業所をもち、調査・設計から施工、機器製作、運営までを行っている。本日も説明する小鷹水力発電所は、鹿児島県の川内川にらせん水車を設置した実証事業である。流れ込み式水路をつくり、1.5m³/秒の水量、3mの落差を利用して発電を行っている。らせん水車は、構造が簡易であり、設置時のコストや維持管理の労力を削減できる可能性があるため、主に小型発電所に向けた方式として、注目されている。実証の内容としては、水車発電機の効率、低コスト化の検討、魚類への影響、騒音対策などについて行っている。さらに、開発に時間を要する点、ダム水路主任技術者を常駐させる必要がある点など、解決しなければならないことは数多い。しかし、たとえば農業用水路への設置であれば国から半分の補助が受けられ、稼働後は売電できることから、採算がとれるケースもできそうだ。発電量200kWh程度の発電所を設置できる余地はまだあり、地産地消で、地域を元気にする効果も期待できる。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.152』の解説がありました。今回は、○太陽の光エネルギーの約4分の1を水素に変換することに成功。○波力発電の技術が向上している。日本近海で540万kW分の導入が可能。1kW時当たり20円以下をめざす。○太陽光発電所は世界中で作りすぎの状態となっており、すでに淘汰の時代に入っている。○メタンガスから魚の餌をつくる技術をアメリカの企業が開発。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次回、3月3日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp